

⑫ 実用新案公報 (Y 2) 昭59-26066

⑪ Int.Cl.³E 05 C 21/02
E 05 D 15/10

識別記号

庁内整理番号

6478-2E
6462-2E

⑭ 公告 昭和59年(1984)7月30日

(全3頁)

⑮ 引き違い戸の移動停止装置

⑯ 実 願 昭56-87068

⑰ 出 願 昭56(1981)6月12日

⑱ 公 開 昭57-198268

⑲ 昭57(1982)12月16日

⑳ 考 案 者 大石 敏雄

静岡県水道町13番地

㉑ 出 願 人 大石家具工業株式会社

静岡県水道町13番地

㉒ 代 理 人 弁理士 橋山 紳一

㉓ 参考文献

実 開 昭53-94823 (JP, U)

㉔ 実用新案登録請求の範囲

左右の縁に手掛を設けた内側に重なる引き違い戸の上下両縁に凹陷部を設け、この凹陷部に縁金を取付け、この縁金に突設した左右の支軸に支持させて、内端を枢着し両端部上面に回転ロールを設けた両腕杆を回動自在に取付け、上記両腕杆の左右裏側の縁金上面に樹立したピンにバネの中心部を嵌合すると共に該バネの一端は両腕杆の裏面に突設したピンに他端は縁金に樹立したピンに夫々係合し、縁金の左右両端に玉バネを突設しこの玉バネに対応させて両腕杆の下面に受穴を設け、上記回転ロールは戸溝の奥部に之と平行に設けた案内溝に係合させてなる引き違い戸の移動停止装置。

㉕ 考案の詳細な説明

本考案は引き違い戸の移動停止装置に係るものである。従来の引き違い戸は二列に平行に設けた戸溝を引き戸が摺動して引き違いに開閉するものであつたが、本考案は、引き違い戸を開閉する場合には従来と何等変わることなく開閉することが出来るが、内側に重なる引き違い戸は必要に応じ前面の引き違い戸の戸溝まで引き出して前面の引き違い戸と同一平面上に並べることにより、引き

違い戸の移動を停止する様に構成したものである。

今、本考案の実施例を図面に付き説明すれば下記の通りである。1は内側に重なる引き違い戸、2, 2は内端3を枢着し両端上部に回転ロール4, 4を設けた両腕杆で、その左右の支軸5, 5は内側に重なる引き違い戸1の上下両縁に直接に取付けるか、又は上下両縁に設けた凹陷部aに縁付けした縁金6に取付けるものである。

尚、回転ロール4, 4は戸溝7の奥部に之と平行に設けた案内溝8に係合させてある。9, 9は両腕杆2, 2の左右裏側に設けたバネで、その一端は両腕杆2, 2の裏面に突設したピン10, 10に係合させ、他端は内側に重なる引き違い戸1の上下両縁か又は上下両縁に設けた凹陷部aに嵌合する縁金6に樹立したピン11, 11に係合させ、且つ中心部12, 12は内側に重ねた引き違い戸の上下両縁か又は縁金6に樹立したピン13, 13に嵌合されてある。14, 14はコイルバネ15, 15に球体16, 16を冠着した玉バネで、この玉バネ14, 14に対応させて両腕杆2, 2に受穴17, 17が設けてある。尚、図面第4図に於て受穴17, 17に球体16, 16の上端を嵌合させるときは、両腕杆2, 2は振れ止めされるものであり又この時バネ9, 9は圧縮されて復帰力を蓄えるから、一旦球バネ14, 14と両腕杆2, 2の裏面に設けた受穴17, 17との係合を離脱させるときは、内側に重なる引き違い戸はバネ9, 9の復帰力により容易に前進して前面に重なる引き違い戸と一平面状に並ぶから引き違い戸は移動を停止されるものである。次に18, 18は内側に重なる引き違い戸1の左右の縁に設け、且つ内側に重なる引き違い戸1を左右に移動させ或いは前方に引き出す場合に使用する手掛である。

本考案は上記の様に構成されているから、内側に重なる引き違い戸1を図面第1図に一点鎖線で示す状態に後方に押し込んで、図面第4図に示す様に左右両腕杆2, 2を内側に重なる引き違い戸

3

4

の上下両縁に重なるときは引き戸は何れも自由に移動出来るが、内側に重なる引き違い戸1を前方に引き出すときは、図面第1図に実線で示す状態又は第2図に示す状態となつて引き戸の側縁と側縁とが当接し一平面状に並ぶから、引き戸は移動

することが出来ず引き戸としての役目を果たさず反つて密閉蓋としての効果を発揮するものである。
 本考案は上記の様に、内側に重なる引き違い戸を外側の引き戸の戸溝まで引き出すことにより、内側に重なる引き違い戸の側縁は外側の引き戸の側縁に当接して同一平面状に並ぶ様に構成してあるから、本考案に係る装置を引き違い戸に使用するときには簡単に引き違い戸の移動を停止させることが出来るものである。又、両腕杆の左右裏側の縁金上面に樹立したピンにバネの中心部を嵌合すると共に該バネの一端は両腕杆の裏面に突設したピンに他端は縁金に樹立したピンにそれぞれ係合し、縁金の左右両端に玉バネを突設しこの玉バネに対応させて両腕杆の下面に受穴を設けてあるから、内側に重なる引き違い戸を引き違いに開閉出来る状態にしたときには受穴に玉バネの球体の上端が係合しているので引き違い戸は前後に振れることなく従来の引き違い戸と同様に支障なく使用出来るものであり、又、このとき上記バネは圧縮されて復帰力を蓄えるから、一旦球バネと両腕杆の裏面に設けた受穴との係合を離脱させるとき即ち、手掛を摺んで引き違い戸を前方に引き出すときにはバネの復帰力により極めて容易に前進して

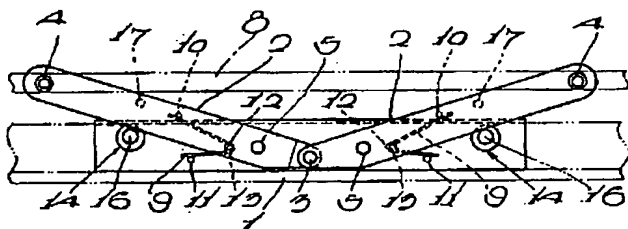
前面に重なる引き違い戸と一平面状に並び、更に又この状態から引き違い戸を後方に押せば受穴に玉バネの球体が係合して引き違いに開閉出来る状態に保持されるから内側に重なる引き違い戸の前後の移動を極めて容易に行なうことが出来るものであり然もこの装置を洋服ダンス、リビングボード、書棚等の引き違い戸に使用して防犯用とすることも出来るものであり、又テレビの収納ケース等に使用するときには勝手にチャンネル操作をすることによるテレビの故障発生を防止することが出来るものである。殊に、引き違い戸は振動し易く為に引き戸がはずれて収容物を破損することも間々経験するところであるが、本考案を使用するときには引き戸は移動に対しては勿論震動に対しても対抗力を有するから、地震時に於ける引き戸の安全性に対し大きな効果を発揮するものである。

図面の簡単な説明

第1図は本考案品の一部切欠斜視図、第2図は本考案品を前方に引き出した状態を示す一部切欠平面図、第3図は本考案品を前方に引き出した状態を示す一部切欠正面図、第4図は本考案品を後方に押し込んだ状態を示す一部切欠平面図、第5図は本考案品の使用状態の一例を示す斜視図である。

図中、1は内側に重なる引き違い戸、2は両腕杆、3は内端、4は回転ロール、5は支軸、6は縁金、7は戸溝、8は案内溝、9はバネ、14は玉バネ、17は受穴。

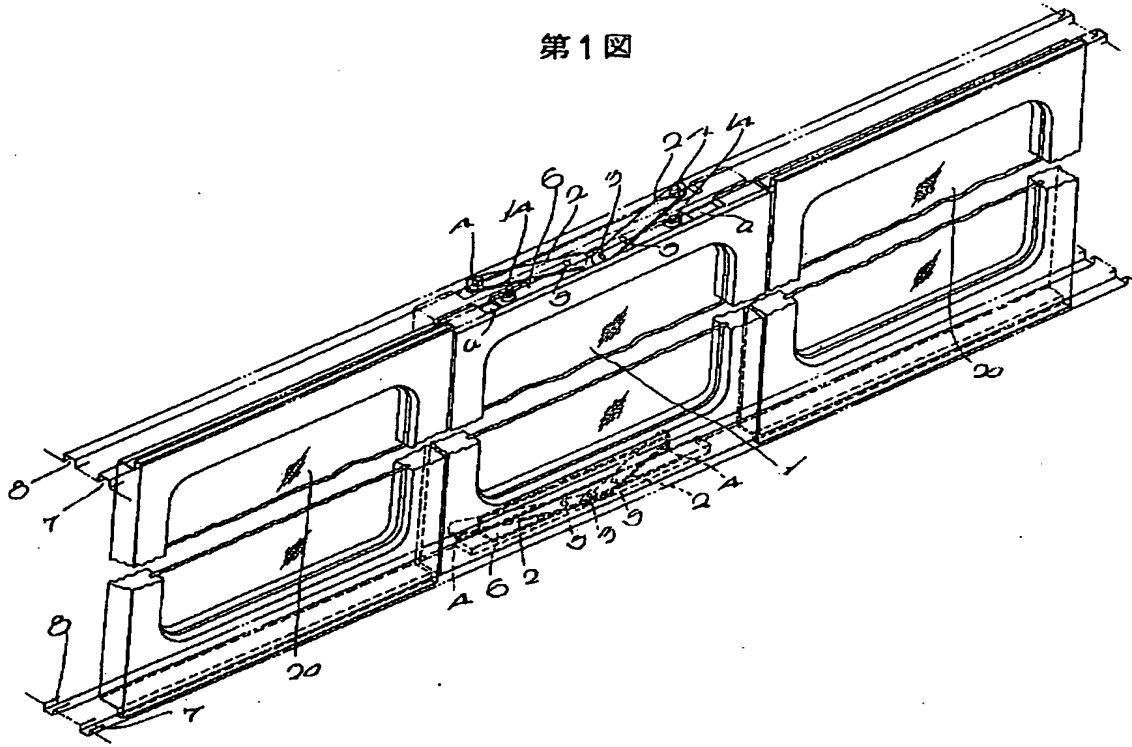
第2図



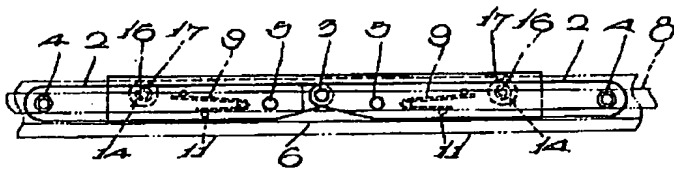
第3図



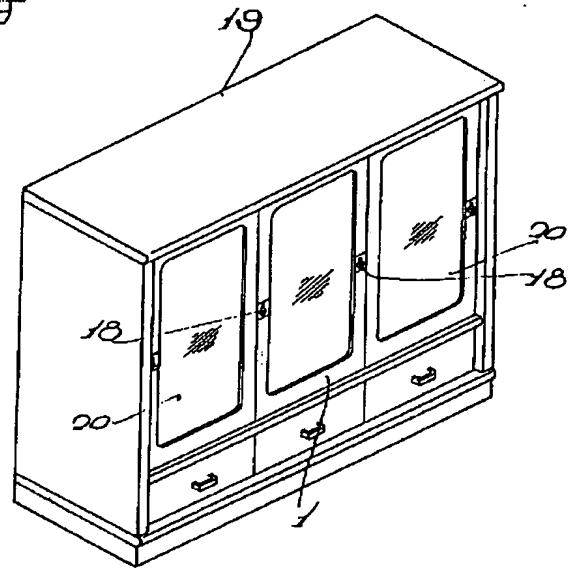
第1図



第4図



第5図



BEST AVAILABLE COPY